



2024.08

漢方医学センター
平澤 一浩

鼻出血にも 漢方薬は役立ちます

鼻出血の多くは、鼻の入り口すぐの鼻中隔から出てきます。ここは血管が密集し、鼻いじりを含めた外からの刺激も受けやすい場所なので出血しやすく、キーゼルバツハ部位とも呼ばれています。ここからの出血であれば、小鼻（正式には鼻翼）を圧迫することで止血されることがほとんどです。鼻腔の奥からの出血は、小鼻の圧迫が効かないので止まりにくく、ひどいときはすぐに耳鼻咽喉科を受診、その猶予もなければ救急車を要請してください。

以上は出血したときの対処法ですが、そもそも鼻出血を繰り返しやすいことでお困りのかたもいると思います。鼻炎や副鼻腔炎があれば出血しやすくなりますし、露出血管があれば焼灼する方法もあるので、まずは耳鼻咽喉科で相談しましょう。また、小児などで鼻をいじってしまう癖があれば、やめる必要があります（しかし小児の鼻いじりは心の葛藤などが隠れていることもあるので、その際は慎重な対応が必要です）。高血圧などがあれば内科での管理が必要になります。それでもよくなる場合には、漢方薬が役に立つこともあります。

最も用いられる漢方薬は黄連解毒湯で、黄連（おうれん）、黄芩（おうごん）、黄柏（おうばく）、山梔子（さんしし）の4つの生薬で構成されています。いずれも熱を冷まし鎮静する作用があり、顔がのぼせやすいタイプのかたに用いやすい処方です。似たような処方に三黄瀉心湯があります。これは黄連解毒湯から黄柏と山梔子を除き、かわりに下剤である大黄（だいおう）を加えた処方です。顔がのぼせるタイプのなかでも、便秘があるかたに用います。同じような顔がのぼせるタイプ向けの処方として桂枝茯苓丸があり、こちらは血流が鬱滞しているかたに用います。

その他、芎帰膠艾湯という漢方薬が合うかたもいます。これはもともと痔や婦人科系の出血に用いられる処方ですが、阿膠（あきょう）、艾葉（がいよう）という生薬に止血作用があり、鼻出血にも効果があります。ただし、冷え症向けの処方であり、顔がのぼせるタイプに使用するとかえって悪化することもあるので注意が必要です。

特殊な例として、胃腸が弱い小児には、小建中湯という胃腸を丈夫にする漢方薬がピッタリのことがあります。漢方の世界では、「脾不統血」といって、胃腸が弱いと血管から血が漏れやすくなるという概念があります。小建中湯で胃腸をよくすると、不思議と出血しにくい体質になっていきます。膠飴（水あめ）が入っていて甘い味なので、小児でも飲みやすくおすすめです。